

14. アジアのベンチャーキャピタルとベンチャービジネスの評価分析

1. 調査の目的

韓国、台湾、中国などにおいては、1980年代以降のベンチャー産業育成政策が、IT産業において顕著な成功を収め、同時にベンチャーキャピタルがリスク資金の供給の新たな形態として寄与してきたことが明らかとなりつつある。先進技術の独自開発を含む科学技術振興体制が産業政策と連携して有効な成果を挙げた。他方、インド、マレーシア、フィリピンなどの実態についてはあまり把握されていないので、それらを明らかにし東アジア諸国と比較研究するとともに今後の日本の協力のあり方などについて調査研究する。

そのため、エレクトロニクス、バイオ・テクノロジーなど重要業種を中心に各国の比較研究を行う。

2. 調査結果の概要

第1章 インドのベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの発展

- 91年経済改革以後 IT ソフトウェア産業を中心に -

本章ではインドのベンチャービジネス、とりわけITソフトウェア産業に焦点を絞り、インドのITハイテク企業の発展とその出現を可能にした政策的背景、とりわけ91年の包括的経済改革が自由化・国際化政策として外資の進出、在外インド資本の還流を呼び起こし、その結果、米国でIT革命に参加したインド人技術者などが帰還し、TCS、Wipro、Infosysなど今や世界的なソフトウェア企業が育ったことを述べる。その草創期には役割を果たさなかった内外資ベンチャーキャピタルがインドにおけるベンチャービジネスのIPO、M&Aに積極的な役割を果たし始めたことを述べ、経営革新・資金調達を通じてインド企業の成長と新分野の開拓に寄与しつつあることを示す。

第2章 マレーシアのベンチャー・キャピタル

マレーシアのベンチャー・キャピタルの現状について、イノベーション政策との関係から調査分析を行っている。マレーシアの研究開発費は対GNP比0.63%と先進国に比べて見劣りがする水準にあり、また、ベンチャー企業の資金調達源は内部資金が圧倒的で(82%)、資本市場からの調達も限られている。こうした状況の下で政府は、科学技術イノベーション庁と財務省を中心に、科学技術政策に寄与するベンチャー・キャピタルの育成を進めてきた。近年は情報通信産業からバイオ育成ファンドの設立も見られ、第9次5カ年計画においてもベンチャー・キャピタルの育成が重要視されていることを指摘する。

第3章 フィリピンのベンチャービジネスとベンチャーキャピタルの新展開

- ITソフトウェア産業を中心に -

フィリピンにおいても、ITソフトウェアのアウトソーシングが英語国の強みを活かして活発化し、新たな労働集約的な産業として雇用創出などに寄与しつつあることを

述べる。フィリピン大学などの科学技術パークの設立は今後フィリピンのベンチャービジネス起業の本格的な環境整備となることが期待されている。エストラダ政権以来の政治・経済不安などが金融システムの発展の停滞をもたらし、金融機関と金融商品の多様化を阻害する中で、ベンチャーキャピタルは公的機関からの投資ファンドはあるものの、民間のものは少なく、民間ベンチャーキャピタルのスタートアップ期の企業への投資は皆無に近い状態であり、今後の本格的な取組が待たれている。